

2045年のSDGsを考える平和ゲーム、コロナ禍での人間の安全保障を考える

開倫塾

塾長 林明夫

Q：私立中学校入試、公立中高一貫校入試、難関高校入試、大学入試、大学院入試、国家試験、採用試験や、あらゆる試験の面接試験・筆記試験にSDGs関連の出題が予想されます。どのような対策をしたらよいと考えますか。

A：SDGsの全項目について、基本的な勉強をするのが第一です。これに加えて、「2045年のSDGsを考える平和ゲーム」の取り組みを参考にするをお奨めいたします。

Q：その「2045年のSDGsを考える平和ゲーム」とは何ですか。

A：一般社団法人平和ゲーム推進協議会理事長で、北海道大学新渡戸カレッジフェロー、長崎大学経済学部客員教授をお務めの多田幸雄先生が推進なさっておられる、2045年を見据えて「勝ち負けで争わない協力をするシュミレーションゲーム」です。

Q：「平和ゲーム」では、どのようなポイントで平和を議論しますか。

A：(1)世の中の戦争はすべて解決できるのか
 (2)平和の反対は、不和か、争いか、戦争か
 (3)敵対しないことは、心と体のバリアフリーか
 (4)人間の安全保障とは何か

Q：戦争(争う)ゲームはたくさんありますが、「平和ゲーム」の特長は何ですか。

A：(1)視点・論点で価値観が異なるゲームです。
 (2)勝ち負けで争わない協力をするシュミレーションゲームです。

Q：「平和ゲーム」は、例えば、どのように行うのですか。

A：方法は自由です。例えば、
 (1)プレイヤーを2チームに分けます。ただし、プレイヤーにはチームを伝えません。
 (2)4人グループに分け、与えられた人物になり切って、SDGsに関するテーマで話し合います。
 (3)事前に、与えられた人物のパーソナルデータを与え、話し合いに必要な情報集めをします。
 (4)チームを発表します。
 (5)グループ内の同チームの人のパーソナルデータ、相手の立場が何であるかを当てます。



(6)6チームで合計点数を競い合います。

ですから、「平和ゲーム」は、実はチーム戦です。

*以上のようなやり方もあります。やり方・方法を自由に考えて OK なのも「平和ゲーム」の特色です。

Q：「平和ゲーム」の特長は何ですか。

A：(1)ディスカッションにゲーム性を持たせますので、SDGs を知らない人でもとっつきやすいです。

(2)パーソナルデータを導入することで、新たな視点を見つけることができます。

(3)自発的なディスカッションが必要ですので、コミュニケーション能力の向上を図ることができます。



Q：「2045年のSDGsを考える平和ゲーム」が、「コロナ禍での人間の安全保障を考える」ことにつながるのですか。

A：(1)SDGs の前提は、世界や日本の持続可能な発展です。2045 年の SDGs を考える際には、10 年後の 2030 年に 15 年を加え、今から 25 年先まで世界や日本を維持・発展させなければなりません。

(2)そのためには、国家の存立を図る「国家の安全保障」と同時並行して、一人一人の人間に注目した「人間の安全保障」を考えることが不可欠です。

(3)人間の安全保障は、緊急事態発生時の生命や財産の「保護(protect)」と、復興時の「能力強化(empowerment)」ですので、SDGs の多くの項目をカバーします。低頻度大規模災害や、今回のコロナ禍も対象となります。

(4)日本の外交政策の基本方針は、国際協調主義と人間の安全保障の推進の二つです。日本政府は、ODA(政府開発援助)だけでなく、SDGs の推進概念として「人間の安全保障」を活用するよう強く提言したく存じます。



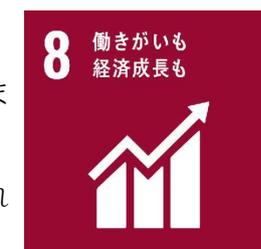
Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1)多くの大学では、全教員に SDGs の研究や教育が求められています。大手企業であればあるほど、企業の行動理念に SDGs が求められています。

(2)そこで、あらゆる入試や国家試験、採用試験に SDGs が多数出題されることが予想されます。

(3)ですから、学習塾・予備校・私立学校でも、SDGs の本質的理解を全スタッフに求めるのは当然と考えます。

(4)SDGs を考えるのであれば、2030 年に 15 年を加え、終戦 100 周年にあたる 2045 年の時点



でSDGsを考えることは、より視野を広くした本格的な取り組みになると確信します。

* SDGs への真正面からの取り組みの一つとして、ご検討ください。大学でも、また、企業や非営利セクターでも SDGs には真正面から取り組まれますので、必ず、入試だけでなく、大学入学後も社会に出てからも役に立ちます。



Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、お読みになれば必ずお役に立つ本をご紹介します。

(1) 1冊目は、上智大学総合人間科学部教育学科教授、奈須正裕著「資質・能力と学びのメカニズム」東洋館出版社 2017年5月30日刊です。

(2) 2冊目は、国立教育政策研究所編「資質・能力(理論編)」国研ライブラリー、東洋館出版社 2016年1月19日刊です。

*この2冊は、日本の「ナショナル・カリキュラム・スタンダード(国家が定める教育課程の基準)」である、「新学習指導要領」の本質的理解と「カリキュラムマネジメント」に欠かせない、極めてわかりやすいテキストです。学習塾の先生自身のカリキュラム作りにも役に立ちます。是非、ご一読を。

(3) 3冊目は、川口伸明著「2060、未来創造の白地図、人類史上最高にエキサイティングな冒険が始まる」技術評論社 2020年3月24日刊です。「生活・文化」「医療・ヘルスケア」「食と農」「宇宙・地球・環境」「都市と交通」「知の未来・知の進化」「知覚と身体性」の有望成長領域の7分野に、エビデンスとストーリーから肉薄。2045年のSDGsを考えると同時に、2060年を考えるのも一興。子どもたちに未来を語るときに役に立ちます。

(4) 4冊目は、船橋洋一編著「自由主義の危機、国際秩序と日本」東洋経済新報社 2020年8月20日刊です。新政権と、日本の具体的役割を明示。1年後は第3次安倍内閣登場と私は予想しますが、皆様はどうお考えですか。

(5) 5冊目は、遠藤誉著「ポストコロナの米中覇権とデジタル人民元」実業之日本社 2020年8月5日刊です。

(6) 6冊目は、室谷克実著「韓国のデマ戦法」産経セレクト、産経新聞出版 2020年8月1日刊です。

*遠藤・室谷両氏のこの2冊で、隣国、中国・韓国の最先端の状況が少しずつわかります。両国に加えロシア・北朝鮮とどう向き合うかが、日本国の国家安全保障の最大課題です。目が離せません。

(7) 7冊目は、フランス哲学者、森有正著「バビロンの流れのほとりにて」筑摩書房 1968年6月10日刊です。「本当の誠実な生涯」とは何か。フランスで西欧文明と真正面から対峙し日本を考える。秋の読書にはもってこいの名著です。

(8) 読書の秋です。8冊目は、フランスの思想家、アンドレ・モーロワ著「初めに行動があった」岩波新書、岩波書店 1967年4月20日刊です。「哲学は日常の行動に奉仕する知的省察でもなければならぬ」「人間の幸福の源泉とみなす行動」を「具体的な日常の生活の知恵」として簡明に提示。名著で、手放せません。

* 森有正先生の講演は ICU で一度だけお聞きしたことがあり、以来、折に触れ作品を読んでいます。アンドレ・モーロワの作品は、大学のフランス語の授業で「青年と人生を語ろう」(日本語訳、二見書房 1968 年 2 月 28 日刊)の何章かを学んで以来、折に触れ読んでいます。よくよく思い起こせば、私の読書のきっかけの多くは、講演会や中学校・高校・大学等の授業です。ですから、学習塾の先生方も余り遠慮なさらずに、授業中に「読書教育」を行うことをご提案します。受講者にとって、「読書教育」は一生の宝物、財産だからです。両氏の作品は、今からでも全部読み直したいと、少しずつですが挑戦中です。

(9)9 冊目は、前内閣府特命担当大臣、片山さつき著「スーパーシティ、社会課題を克服する未来のまちづくり」事業構想大学院大学出版部 2020 年 8 月 1 日刊です。来年、国により「スーパーシティ」が数か所指定されます。「スーパーシティ」を数年内に日本国中に展開、地方創生の「はずみ車」とするのが、国の政策です。是非、今から研究し、最大活用を。

よろしくお願ひいたします。

2020 年 9 月 6 日(日)8 時 09 分

